

セミナー「実例で示す木造建物の耐震補強と維持管理」報告

平成 19 年 11 月 20 日（火）13:30～17:00、大阪の建設交流館 8 階グリーンホールにおいて標記のセミナーが開催されました。参加者は、130 名以上で会場がほぼ埋まり盛況でした。本セミナーは下記のように 4 名の講師で行われました。

- (1) 大地震による木造建物の被害を検証する –最近の地震被害調査から– : 後藤正美 (金沢工業大学)
- (2) 木造建物を支える –知っておきたい地盤の基礎知識– : 田村修次 (京都大学防災研究所)
- (3) 木造建物を耐震補強する –耐震性能と補強方法– : 鈴木祥之 (京都大学防災研究所)
- (4) 木造建物を長持ちさせる –維持管理法– : 藤井義久 (京都大学農学研究科)

金沢工業大学の後藤先生の講演では、能登半島沖地震および新潟中越沖地震の被害調査の報告がなされました。壁配置など構造計画、仕口・接合部の問題、維持管理の悪さが、木造建物の被害の要因として挙げられました。京都大学の田村（筆者）の講演では、粘性土の圧密沈下、砂地盤の液状化について説明するとともに、土質種別（砂か粘性土か）が大切であること、べた基礎の問題点を指摘しました。京都大学の鈴木先生の講演では、伝統工法木造住宅の実大振動実験結果から理論解析まで説明がなされました。合板を張るなどの一般的な木造建物の耐震補強を伝統工法の木造建物に行うことは、逆に耐震性能を下げるのが強調されていました。京都大学の藤井先生の講演では、シロアリ、腐朽についての事例、劣化診断法および対処法について説明がなされました。シロアリ、腐朽の生々しい映像は、強い印象を参加者に与えたと思います。質疑応答では、シロアリが見つかった事例に対する対応法、伝統的工法木造建物の確認申請など、実務に直結した質問が参加者から出されました。

本セミナーの参加者は、設計事務所、工務店など実務者が多く、研究成果を社会に還元することができたと思います。また、関西圏のみならず、広島、石川からも参加者がおり、木造建物の耐震性の関心の高さを感じました。最後に、本セミナーを開催するにあたり、講師の鈴木先生、後藤先生、藤井先生に大変お世話になりました。記して、感謝いたします。



講演の風景（左から、後藤先生、田村、鈴木先生）



講演の風景（藤井先生）



質疑応答



セミナーの全体風景

(文責：事業企画委員会 田村修次 京都大学防災研究所)